

# きらりNet

## 児童生徒の学習をICT機器で支援する

児童生徒の教育的ニーズに応じて、ICT機器を導入・活用している事例を2つ紹介します。

### ローコスト視線入力装置で学習を支援する ～パート2～



脳性まひのために手指の動きに制限がある生徒への支援として、昨年度からローコストな視線入力装置を導入しています。週1～2時間程度、視線入力のトレーニングや教科学習に活用しています。

“視線入力、と聞くと、何か特別なものではと思われるかもしれませんが、パソコンを操作するマウスが“視線入力装置、に置き換わったと考えると分かりやすいと思います。

視線入力にチャレンジしている生徒はパソコンのモニター上のボタンやアイコンを選択し、ワンボタンスイッチで決定することに慣れてきました。本年度は生徒からの要望により視線入力で片仮名の学習に挑戦しています。将来、自分でパソコンを使って好きなスポーツ選手達の情報を調べたいという願いをもっています。その願いが叶うように積極的に視線入力装置の活用を進めていきたいと考えています。



日本肢体不自由児協会の機関誌『はげみ』6/7月号で一冊丸ごと“視線入力”の特集が組まれました。全国的に活用が広がっていることが分かります。

### 無線キーボード・マウスで学習の可能性が広がる ～中学部、高等部生の事例～

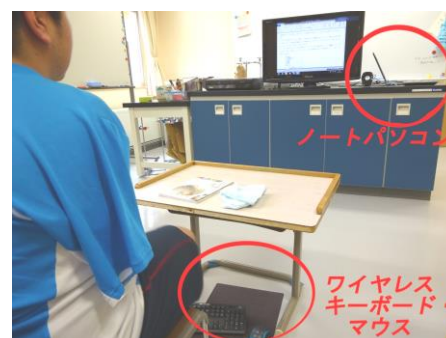
無線キーボード、無線マウスは、場所を選ばず設置することができます。

上肢に障害のあるA君は、床にキーボードとマウスを置き、足で操作します。以前は机上のパソコンとキーボードをつなぐコードが邪魔で難儀をしていましたが、無線にしてから扱いやすくなりました。大型モニターをノートパソコンにつなぎ、見やすくしています。A君はワープロ検定4級を取得し、さらに上の級を目指しています。

足の手術後にベッド学習をしていたB君は、手元のキーボードとマウスから電波を飛ばして、電子黒板につながれた遠くのパソコンに入力しています。延長コードを準備してノートパソコンを狭い机の上に置き、マウスを動かすスペースを確保して…というわずらわしさから開放され、気軽に授業に取り入れられます。

プレゼンテーションをする場合には、生徒のいる場所や向きがどこであっても、自由に場を設定できます。キーボードやマウスの位置も生徒に合わせて変えることができます。この自由度の高さが、無線周辺機器を使う強みです。

〈文責：高橋正義〉



A君の学習の様子

# ★ 星のきらりの実践 ③ 高等部 情報

合わせた指導を主とした学習グループ  
(高等部2, 3年)の実践  
キーワード: パソコン機能の教材研究

ねらいは「Wordや画像ソフト、プレゼンテーションソフトなどを使い、作品を作る」ことです。主にパソコンを使用し、生徒にとって身近な作品を作っています。現在行っている「学級通信作り」での工夫点や使用したパソコンの機能を紹介します。

文責: 市川堯

## 学級通信作りでの工夫

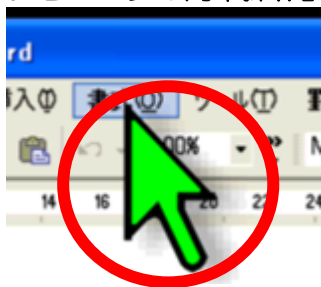
### 一人一人に合わせた手順表

スクリーンショットを使用し、見て、理解しやすいような手順表を作成。一人でできるよう、細かく説明した。



### カーソルの色や大きさを 変更

カーソルを見やすくするため、色や大きさを変更した。パソコンの基本設定には、障害に配慮した機能がいくつかあるが、これは「コントロールパネル→コンピュータの簡単操作」にある。

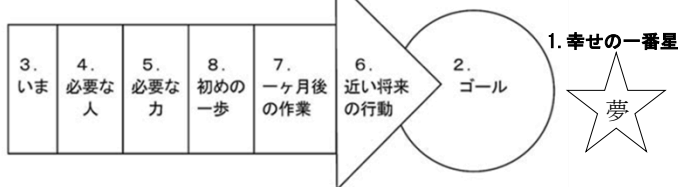


### おすすめ機能の紹介

特別支援学校等で使用しているWindowsのPCを起動すると、「Ctrl+Alt+Del」を押して下さいの表示が出ます。3つのキーを一度に押すことが難しい子どもへおすすめするのが次の方法、「Shiftキーを5回押す」です。これを行うことで、キーが固定され、続けてキーを押しても、一度に押すのと同じ機能を果たせます。ぜひお試しください。

## 教育専門監のコーナー

### PATH (Planning Alternative Tomorrow with Hope) 「希望に満ちたもう一つの未来の計画」



- ステップ1 「幸せの一番星(夢)」を決める
- ステップ2 ゴールを設定する(3年後の姿)
- ステップ3 今、現在の様子や姿(子どもの実態)
- ステップ4 誰を必要とするのか(必要な人)
- ステップ5 どんな力を身に付けたらよいのか(必要な力)
- ステップ6 近い将来の姿(半年後又は1年後の姿)
- ステップ7 一ヶ月後にすべきことは何か
- ステップ8 はじめの一步(それぞれ何を)

参考文献:「ぱれっと」(ジアース社)

手厚い支援を必要としている子どもたちの夢、願いを支えるために、「なぜ、何のために」学習するのかを大切にしながら本人、関係者で指導・支援を考えていきたいものです。

### 《生きる力を育むICT活用》

他県では、本人の夢や願いの実現を目指し、大学入試センター試験に向けた教科学習や在宅勤務に向けた遠隔職場実習において、ICT活用が進められています。

また、『「学びのイノベーション事業」(文部科学省)』には、特別支援学校の各教科や自立活動等におけるICTの活用例が多数紹介されています。

本校では、児童生徒が主体的に生きることを目指し、遠隔コミュニケーションをはじめとする、ICTの活用を行っています。

一人一人の多様なニーズに基づき、「自ら選ぶ、自ら決める、決めたことに責任をもつ」、「自ら役割を担い、力を発揮する」ことを大切に、日々の実践を進めています。

地域社会に役割を見出し、豊かな生活が送れるように、子どもたちの「幸せの一番星(夢)」の実現に向けて取り組んでいます。

文責: 二階堂 悟

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。



教頭 伊藤 敏博 地域支援部 佐藤 忠浩

住所: 〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話: 018(889)8573 FAX: 018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>